第17回　役員訪問　聞かせてください

聞き手／常任理事　藤原秀俊

・生年月日　昭和28年6月19日
・出生地　札幌市
・出身大学　札幌医科大学
昭和56年卒　産婦人科
札幌医科大学大学院
・好きな言葉　明日はあしたの風が吹く

●自転車で駆け回った幼少時代

藤原　医師になったきっかけは何ですか？

藤井　直接は友人のすすめですね。高校二年生までは工学部建築科に進んで、街や建物を作りたいと思っていました。

父の影響があったのか理系でした。以前、琴似にあった道立工業試験場に勤務しており、父＝実験室のようなイメージでした。北海道教育大学教育学部附属中学校（現・北海道教育大学附属中学校）で所属していた生物クラブでは、魚のウロコや頬の粘膜を顕微鏡で観察しては、「きれいだな。こういう仕事ができたらいいな」と感じたこともありました。

藤原　先生は一人っ子ですか？

藤井　4つ違いの妹が一人。現在は内科の開業医です。私と違って本が好きで、父の書斎にある本はほとんど読んでいたんじゃないかな。一方私は科学物や探偵物、SFばっかり（笑）。読書より外で遊ぶことのほうが好きでした。

藤原　好奇心が旺盛で男の子みたいですね。先生は結構おてんばだった？

藤井　はい（笑）。自転車で色々なところに出かけて、よく迷子になっていました。当時の琴似町（現・札幌市西区琴似地域）は、一面の田園風景。秋になると、道端に刈り取られた稲穂が連なって塀のようになっていました。太陽の光で黄金色に輝く稲穂がとても綺麗だったのを覚えています。

藤原　よく分かります。私の家も農家で、田植え・稲刈りなど手伝っていましたから。

●若い女医にはモデルが必要

藤原　藤井先生は北海道医師会で最初の女性役員ですね。女性の立場から、先生はどのような活動を展開していこうとお考えですか。

藤井　女性医師の組織化と、妊娠・子育てなどの理由で第一線から離れざるをえないと考えている先生たちの意識改革です。

藤原　そうした考えの先生方の意識を変えるには。

藤井　身近に女性医師のモデルがいれば、このような場面に直面してもモチベーションは維持できると思います。

私自身、先輩医師からはたくさんのことを教えていただきました。しかし女医の先輩からアドバイスをいただいた経験というのは、残念ながらあまり多くありません。若い女性医師のモデルになるような先生がもっと増えたらいいのですが…

藤原　先生がモデルにしている女性医師は？

藤井　私が国内留学した大阪大学でお世話になった西澤恭子先生（現・大阪府立成人病センター研究所病理学部門長）と、日本で初めて女性外来を提唱した天野恵子先生（現・千葉県衛生研究所所長）です。お二方とも嫌味のないリーダーシップで周りを引っ張ってくれました。

西澤先生は同僚より早く来て掃除や実験の準備を率先なさる。天野先生は大変合理的な判断で、物事が円滑に進むよう舵をとってくれました。お二人ともお子さんを持ちながら、バリバリと活躍されています。

藤原　最近では医学部に入学する女性の割合が増えていますね。後輩たちに伝えたいことはありますか？

藤井　「夢は諦めずに追い求め続ける」。一途に追い求め続ける姿は、誰かが必ず見ていてくれますから。

●一人旅でリフレッシュ、余暇は母との散歩

藤原　ご趣味は「一人旅」だそうですが、こう忙しいとなかなか旅行する時間もないんじゃないですか？

藤井　最近は医師会のおかげで、余暇はほとんどありませんね（笑）。まぁ旅といっても学会出張のついでに、鈍行に乗って気ままに、ぶらりと足を伸ばすだ

北海道医師会　常任理事　藤井美穂（ふじいみほ）

けですが、これがいいリフレッシュになるんです。あとは余暇といえば母親を連れて近所を散歩することくらいかな。

80歳になる母は、出産後すぐに働き始めた私の代わりに娘を育ててくれました。参観日から躾(しつけ)、子どものスイミングスクールまで、子育ての全てをやってくれました。今、母は認知症を患っています。母との日々の生活を大切にしようと思い、近所の自然公園やサクランボ狩りに出掛けています。

藤原　医師会活動は負担ではないですか？

藤井　むしろ私にとっては良い刺激です。役員の先生方は、時間がないなか与えられた職務に熱心に取り組んでらっしゃいます。医師の中でも素晴らしい人間性の方ばかりですから。いつも勉強させられることばかりです。

藤原　先生が医師になって良かったと思うことは何ですか？

藤井　患者さんに接する時、医師である前に一人の女性として、患者さんのことを理解し、共感できるということが、産婦人科医を選んで良かったことだと思います。一方で、医師と患者さんが手を取り合って病気を克服するという共同作業の中から、自分のすべきことを患者さんから教えていただいている気がします。

趣味の一つ山登り。娘とともに黒岳山頂

「魚とふれ合う時間がもっと欲しい」

インタビューを終えて

常任理事　藤原秀俊

イメージはまさに「アルプスの少女ハイジ」

学生結婚されたご主人（藤井義博医師）に、「文句一つ言わず私を支えてくれて、感謝してます」と気恥ずかしそうな笑顔で話してくれました。

藤井美穂先生は「アルプスの少女ハイジ」がそのまま大きく育ったような雰囲気。純粋な頑張り屋さんです。スキューバダイビングで「波に飲まれて危なかった」と話されていましたが、あまり無茶はしないでください。先生がいないと北海道医師会が寂しくなりますから。